

大杉谷国有林からの手紙

22通目 ～大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団～

私にとって、3度目の大杉谷の秋ですが、尾根を吹く風に身をすくめ、木々の葉も色づき始めるなど、今年の秋は少し駆け足ぎみに近づいているようです。

さて、今回は、9月30日（土）に実施した「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」について、ご報告します。この活動は、平成12年度から、皮剥防止用ネットの取付作業など樹木保護活動を通じて「ニホンジカ被害の実態と樹木保護の重要性」を皆さんに知ってもらおうと実施しているものです。

今年も、地元の三重県や奈良県をはじめ、大阪府、京都府、和歌山県、遠くは静岡県や徳島県から総勢27名の皆さんに、参加してもらいました。

昨年は、雷注意報が発令されるあいにくの天候でしたが、今年の天気予報は晴天でした。

しかし、山の天気はわかりません。当日は、曇り空の中、強風が吹き付け、気温9℃と、思わず足踏みをしてしまうほどの寒さに襲われました。

このため、参加者の皆さんからは、「さすがに大台ヶ原、下界とは違うなあ」、「もう一枚羽織るものを持って来ればよかった。」との声があちらこちらから…。

でも、皆さんの笑顔いっぱいの記念撮影のあと、「正木が原」を目指して林内を歩き始めると、徐々に日差しが差し始め、最後には、うっすらと汗をにじませる程に気温が上がってきました。



歩道から見た太平洋。手前はシカから稚樹を守るパッチディフェンス



「正木ヶ原」で、早めの昼食をとりながら、私と菅野自然保護官が、林野庁と環境省が実施している自然再生の取組を説明した後、8班に分かれて、作業開始です。

その頃には、普段の行いが良いのか、強風から爽やかな秋風に変わっていました。

遊歩道周辺でのネット巻き、稚樹の周りのササの刈払いを黙々に行っていると、登山者の方々から、「頑張ってください。」「お疲れ様です。」と声をかけられ、少し照れくさそうにされている参加者の笑顔がとても印象的でした。

1時間ほどで作業を終え、入り組んだ海岸線と太平洋に浮かぶ島々の美しさに心を奪われながら、夢中になって写真を撮りながら、名残惜しそうに、ゆっくり、ゆっくりと時間をかけてテラスまでに移動。



手際よくネットを巻き終え、これで一安心

ここで、「大杉谷の生き字引」と私が尊敬する三重県の宮川森林組合の森正裕さんから、水質日本一の宮川の清流は、源流部の大杉谷の森林が育てていることやそれを守り未来へつなげていくことの大切さについてのお話を伺いました。

最後に、皆さんの声をご紹介します、「若い人たちにももっと参加してもらいたい、今度、孫も誘ってみます」、「年1回と言わず春や夏にもやってもらえれば参加しますよ」、「自分たちにも出来ることがあるということを実感できた、来年も絶対参加したい」、「もっと作業時間をのばしてもらいたいな、まだまだ元気ですよ」、「去年と違って今年は、気持ちよく汗をかくことができて良かった」などなど。



森さんから大杉谷の素晴らしさを聴く参加者の皆さん

皆さんから頂いた声を参考に、「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を更に良いものにしていきたいと思えます。

この手紙をお読みになって、「私も行ってみたい」と、少しでも興味を持ったあなた、来年は、ぜひ参加してみてください。感動をお約束します。

では、来年の「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」でお目にかかりましょう！

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)